

今号の「和」題



旬の和歌山情報をお届けします！

WAI TOPICS 01

南紀熊野ジオパークセンターが7月27日にオープンします！



認定されました。和歌山県ではユネスコ世界ジオパーク認定に向けた取組を推進しており、その一つとして、7月27日(土)に拠点施設「南紀熊野ジオパークセンター」が串本町潮岬にオープンします。

南紀熊野ジオパークは、プレート沈み込みに伴って生み出された3種類の大地に育まれた、数多くの優れた自然や文化を体感できることです。

串本町の橋杭岩や古座川町の一枚岩、日本一の落差を誇る那智勝浦町の那智の滝など、107のジオサイトで構成されており、2014年8月に日本ジオパークに認定され、今年1月には再

センターでは、プロジェクションマッピングによる迫力ある映像や実験・体験装置などで、熊野の大地の成り立ちや自然、文化などを楽しみながら理解できるほか、常駐するジオパークガイドから地域の魅力を生で聞くことができます。(開館時間 9:00~17:00(オープン日のみ 12:00~17:00)、入館料無料、年末年始のみ休館)

問い合わせ／南紀熊野ジオパークセンター開設準備室 電話／0735-67-7100

WAI TOPICS 02

徳川御三家 紀州徳川家創設から400年

元和5(1619)年、徳川家康の10男頼宣(よりのぶ)は55万5千石を拝領し、和歌山城に入城しました。紀州徳川家は尾張・水戸とともに「御三家」と呼ばれ、將軍を2人輩出した家でもあります。

初代藩主頼宣は黒江塗(漆器)やみかんの栽培など産業を奨励し、紀州藩の基礎を築きました。また、親孝行の大切さや法律を守ること、正直に生き家業に専念することなど、道徳規範を説いた「父母状」を作成し領民に広め、その精神は今も紀州人に受け継がれています。

さらに16代当主の頼貞(よりのさだ)は、西洋音楽の日本への普及に尽力し、収集した貴重な音楽資料のコレクションは「南

葵音楽文庫」と呼ばれ、和歌山で大切に保管されています。

今年は紀州徳川家創設から400年の節目の年になります。それを記念し、和歌山県立博物館における「徳川家入国400年記念特別展 徳川頼宣と紀伊徳川家の名宝」(開催期間：10月19日(土)~11月24日(日)・和歌山市立博物館と共催)など、今後様々なイベントが予定されています。



問い合わせ／【南葵音楽文庫について】和歌山県文化学術課 電話／073-441-2052
【特別展について】和歌山県立博物館 電話／073-436-8670

発見!! こんなところに和歌山!?



吉宗は花見により人が集まり、隅田川堤(通称墨堤=はくてい)が踏み固められることを見越して桜を植えたとも言われる。

関東の水辺の風景には、紀州人の知恵と想いが込められていた。

かつて「水の都」と称された東京を象徴する隅田川。江戸時代、渡しなど様々な船が行き交う風景に彩りを与えたのが、紀州藩主から將軍となり享保の改革を実行した8代將軍徳川吉宗。自ら率先して質素な生活を行うことで質素儉約を進める一方、庶民が花見を楽しめるようにと隅田川堤に多くの桜を植えたという。

また、吉宗が紀州藩主であっ

た頃から重用されていた井澤弥惣兵衛は、「紀州流」と呼ばれる農業土木技術を用い、飯沼新田(茨城県)や見沼新田(埼玉県他)など、関東の新田開発を行った。特に見沼代用水は著名である。



現在でも使用されている見沼代用水。和歌山県海南市出身の井澤弥惣兵衛は、紀の川流域の新田開発などに携わり、土木工事担当の役人として5代の紀州藩藩主に仕えた。

Data ▶ 隅田公園

住所／東京都墨田区向島1

電話／03-5608-6661(墨田区役所)

墨堤(隅田川堤)は、隅田公園としてさくら名所100選にも選ばれている人気スポット。